

リンゴ産業 地域で守ろう

「弘前シールドル」経営・高橋さん講演

後継ぎ不足、廃業に警鐘

つがる

放送大学青森学習センターは11

月28日、つがる市立図書館で公開講演会を開いた。弘前市でシールドル工房を経営する「百姓堂本舗」代表取締役の高橋哲史さんが「明日のために木を植える」と題して講演し、本県リンゴ産業の現状と今後の展望について語った。
(藤田幸雄)

公開講演会は同図書館と共催。リンゴ農家の長男である高橋さんは2002年に東京からUターン就農し、14年に「弘前シールドル工房 k i m o r i」を開業。18年からはリンゴ農家育成事業なども行っている。高橋さんは、リンゴ生

産量日本一の本県では後継ぎが不足しており、20年後には多くのリンゴ農家が廃業に追い込まれる」と警鐘を鳴らした上で、「リンゴ価格はこの地域の経済にダイレクトに響くといわれており、リンゴ農家の廃業は関連産業の衰退を招く地域課題である」と強調した。

一方で、10年ほど前からリンゴ園で音楽会などのイベントを企画している。「津軽地方のリンゴの木は風景はかけがえのないもので、すごく貴重。この地域で当たり前に食べられてきたリンゴを、農家だけでなく地域全体でつなげていくことが大切」などと語った。



本県リンゴ産業の未来について語る高橋さん